

丹波篠山市公民館だより 第39号 四季の森通信

発行元
丹波篠山市立中央公民館
丹波篠山市網掛429
TEL079-594-1180
館長 谷掛 昭二
令和元年12月20日

Topics =最近の出来事=

丹波篠山市誕生記念！ 桶ツト卓球世界大会in丹波篠山を開催!!

開催日：2020年2月15日(土)
会場：四季の森生涯学習センター
西館 多目的ホール特設会場

祝！丹波篠山市誕生と市制20周年を記念して、外国にルーツを持つ方々との友好と親善のため、「桶ツト卓球」の世界大会を開催します！

桶ツト卓球は、卓球のラケットとネットの代わりに風呂用の「桶」(桶ツトおよび桶ネット)を使用する、丹波篠山を代表するニュースポーツです。

どなたでも気軽に楽しめることから、桶ツトファン急増中！
参加対象は、年齢・性別・国籍は問いません。世界の頂点を目指して、小学生・中学生の君も、お父さん・お母さん、おじいちゃん・おばあちゃんも、皆さんのご参加をお待ちしてま〜す！

対象：国籍・性別・年齢は問いません
組数：ペア(2人1組)フリーダブルス

100組募集(先着順。日本国外にルーツのあるペア枠、日本人ペア枠を、それぞれ50組で予定)

表彰・特典：上位・特別賞と全員に丹波篠山市誕生・市制20周年記念品を配布します

申込方法：中央公民館に設置しているチラシ申込書に必要事項を記入の上、下記の事務局までお申し込みください。FAXでのお申し込みも受け付けます

※チラシは市ホームページ(地域コミュニティ課)からダウンロードできます。
※無料練習日もあります。詳しくは下記事務局までお問い合わせください。



◇丹波篠山市立中央公民館 〒669-2205 丹波篠山市網掛429
TEL 079-594-1180 FAX 079-594-1174

公民館のニューフェイス！ 9月に加わった公民館の新しい仲間をご紹介

9月より中央公民館で、お仕事をさせていただくことになりました。生まれも育ちも丹波篠山!!長年住んでいても、まだ知らないことがあるのだと日々発見しているところです！不慣れでご迷惑をお掛けすることもあるかと思いますが、どうぞよろしくお願い致します。また、お越しの際は、お気軽にお声かけください。 中央公民館 利根由加子

募集集中

川柳

第31回

お題 「二年」北野哲男選

応募数 9名19句

*最優秀句は、今回残念ながらございませんでした。

優秀句

2年間役員任期使命感

味間 奥 田中 淳夫

☆ オール漢字で成功。

先生お手本 「使命感役員任期二年間」

2年目も平成がまだ抜け切れず

杉 山内 俊朗

☆ 同感の人は多い。

麒麟がくる丹波篠山よろしくね

野間 竹本恵美子

☆ 題を詠み込まず、来年のテレビドラマを表現して成功。

総評

・作者の思いが読んだ人に伝わるように。一人よがりが多い。

次号のお題「日記」1月20日×切
中央公民館・城東公民館・多紀支所・西紀支所・今田支所まで持参・郵送・FAXでご応募ください。一人二句まででお願いします。

一生勉強一生青春 Vol.28

和田 希代子 さん (住吉台)

「おいしい野菜の感動を皆さんにも！」

4年前に宝塚から丹波篠山へ1ターン。土に触ったことも長靴をはいたこともない彼女が夫と選んだ道は、有機農業でした。4人の子どもを育てながら一からのスタートでしたが、日々の学びが実を結び、今では、色々な場で夫婦で作った野菜を販売するまでになっています。

阪神間で飲食業を営んでいたこともあり、農業に興味のあった夫の決断でこちらにやってきました。農業の「の」字もわからなかったので、1年目は市の農都政策課に相談し、県の農業大学校に入り、ぼかし肥料を使った有機農業を学びました。そこで作った野菜は、大根は梨みたいで甘く、ピーマンにはえぐみがありませんでした。目から鱗のおいしい野菜に出会い、野菜作りの魅力にはまりました。

また、市主催の楽農スクールでも黒豆や山の芋など、丹波篠山の特産品をはじめとする季節野菜の栽培管理を学びました。そこで出会った方からは、今借り受けている農場を紹介いただきました。大学やスクールで学んだことを活かしながら頑張っていますが、家庭菜園的なことと違って大きい田畑ですので、勝手も違い一年一年挑戦です。

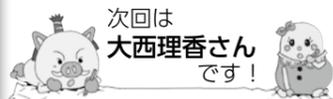
多くの人に食べていただきたくて、販売もしています。ただ、物だけ売るのではなく、付加価値を付けたくて、ポップに栄養価や料理法などを書いています。

そのためにも、野菜の作り方だけではなく色々な知識を付けて、通信教育で勉強し、野菜コーディネーターや国際栄養師の資格も取りました。他にも商品の陳列方法や接客の方法など、これからも学ばないといけないことはいっぱいです。



【記者より】

和田さんの第一印象は、「農業女子ステキ！」栽培から販売まで、経営センスも問われるこの仕事。色々な学びで切り開いていける姿は、多くの農業女子のあこがれとなるでしょう。(A)



次回は 大西理香さん です！ 次のバトンはこの人に託します！

編 集 後 記
今まで、何気なく読んでいた「四季の森通信」に担当者として携わる事で、いろいろな方との出会いがあります。今回、初めて取材に立ち会わせてもらう機会がありました。その方の「いきいき」とした顔が忘れられません。人の生き方はさまざまですが、私はどんなことに対しても一生懸命取り組むことで誰もが「輝きを放ち」、「いきいき」と生活ができる。そんな丹波篠山であり続けますように!!と願っています。公民館に勤務しなければ感じなかったこと、そんな気持ちをこれからも「四季の森通信」を通して、皆さんに伝えられるように、また興味を持っていただけるように頑張っていきたいと思います。これからも、充実した「四季の森通信」が届けられますように…。 (ト)

Report = 報告 =

公民館で始まる学びの輪。学びに老若男女は関係ありません。

【高齢者大学】

学ぶ高齢者のつどい入選作品のご紹介



←【日本画部門】入賞
作品名「余部橋梁」
中尾 清さん

丹波篠山市高齢者大学 しゃくなげ学園
水墨画講座

私はしゃくなげ学園水墨画講座に在籍し、仲間と一緒に水墨画を描いております。

今回の作品は、以前2・3回ほど「余部橋梁」を訪れ、その風景の素晴らしさから描きたいと思っていた画材で、資料を集めて作品として仕上げました。橋梁の細い線を描くときはとても苦労しました。

この作品とともに、11月22日に西播磨文化会館で開催された兵庫県学ぶ高齢者のつどいに参加したところ、多くの優秀な作品に刺激を受け、新しい作品への意欲が出てきましたので、これからも作品を描き続けたいと思います。

【B&G 公民館職員研修】
水辺を制す!!

本年度6月にB&G財団が主催する研修に公民館職員が参加しました。

研修の1カ月間、鍛え、学びを繰り返し、無事「センターインストラクター」という資格を取得しました。センターインストラクターとは、海洋性レクリエーションや水泳指導、水辺の安全教室などの指導ができる者を指します。

また他の公民館職員を対象にリーダー養成研修を行いました。リーダーとは海洋性レクリエーションや水泳教室などのようなイベントに対するボランティアスタッフを指します。

結果、この養成研修では、3人の職員が新たにリーダーになりました。

水辺の環境学習や、安全教室を行いたいけれど専門のスタッフが身の回りにいないときは、公民館にお問い合わせください！充実した教室をご用意いたします！



↑リーダー研修の様子

【青少年行動力等開発プログラム事業】
丹波篠山市で若者が弾けた!!

本年度8月17日に行われた、「夏映え！ウォーターゲーム～弾丸は水！？サバイバル！？～」に約10人の若者(20歳代)が集結しました。

そこで行われた内容は、水風船を使ったどこでもできる遊びを考えるイベントでした。

参加者は、まず主催者が持ってきた遊びのルール(案)を体験します。その後、自分たちのオリジナルルールを組み込んでいき、新たな「ウォーターゲーム」を創造しました。

今回できた「ウォーターゲーム」により、初対面だった参加者の絆は深まり、イベントが終わっても愛称で呼びあったり、冗談を言い合えるほど仲良くなりました。

今、丹波篠山市で遊び場を求めている若者がいます。「仲間がほしい」「地元で遊びたい」方大募集です！

興味を待たれた方は公民館にお問い合わせください。



↑無邪気にはしゃぐ参加者たち

Info = 公民館からのお知らせ =

【丹波篠山市成人式実行委員会】
成人式の成功に向けて
実行委員 頑張っています!!

成人式実行委員会は、令和元年6月以降毎月集まり、成人式のオープニングやメインステージの案やアイデアを試行錯誤しながら練っています。成人式を迎える皆さんが思い出に残る、また楽しめる式になるように一生懸命頑張っているのです、ご期待ください！

成人式当日、皆さんに会えることを楽しみにしています。



↑昨年度の新成人集合写真

Report = 報告 =

公民館で始まる学びの輪。学びに老若男女は関係ありません。

親子の絆づくりプログラム
“きょうだいが生まれた！”

初開催!



【BP 2(ベビープログラム2)】
公民館新規事業の“きょうだい”が生まれた！”が11月5日から12月3日に開催されました。

このプログラムは、2人目以上のお子さんを育てているお母さんのためのプログラム。

「子育ての仲間づくり」と「少し先を見通した子育て知識を得ること」を目標としており、このことによりお母さんの心身が安定し、安心して子育てできるようになることを目指しています。

今回の第一期生は9人のお母さんが参加。

幼児期になって自我が芽生えてきた上のお子さんとの関わり方や、お母さん自身のストレス発散方法、また、親自身の人生についてもみんなで話しました。



聞きにくいことも聞きました。「そうそう！」って言ってもらうだけで楽になりました。

他のお母さんと話して、悩みが一緒だとわかっただけで、心が休まりました。

上の子との関わり方を反省しました。もっと話が聞きたいです。

子どもが少なくなっている中で、どれだけの人か来ているのか不安でした。多くのお母さんと出会えて安心しました。こんな機会があることが嬉しいです。



募集中

第11回

篠山のむかしばなし実物写真館

◆和泉式部と桑原◆



わらわが式部じゃ

式部を偲ぶ供養塔

平安中期の女流歌人、和泉式部が丹後への旅の途中、ある村に立ち寄ったときのことです。大雨で川にかかる橋が流されてしまい先に進むことができなくなってしまいました。村人たちは式部に家を貸し、自分たちの食べるものを減らして分け与えるなど、精いっぱいにもてなしたそうです。そんな村人たちに恩返ししたいと考えた式部は、村人たちを集め「みんなで桑を植え、蚕を育てて絹糸を作りましょ！」と提案しました。村人たちは、一生懸命に働き、数年後にはたくさんの繭を作り、絹糸から布を織ることも覚えしました。やがて、大雨に流された橋が再建し、式部が村を去る時がやってきました。名残惜しそうに、式部は次の歌を詠んだそうです。

「桑原の 里に引くまゆ 拾い置き 君が八千代の 衣糸にせん」
村人が力を合わせたおかげで、桑畑はよくしげり、だれ言うことなく、この村は「桑原」と呼ばれるようになったそうです。

募集中

第11回

ささやまあるある 博覧会

～親愛の情をこめた敬称“おまえ”～

「おまえ、遠いところから来たんけ」

見ず知らずの人に、こんな風に言われたらどんな気分になりますか？大抵の人は、あまり良い気分がしないのではないのでしょうか？

「おまえ」は、古語において「御前」で、本来は神仏や貴人の前を敬って言う語で、そこから「貴人」を指す言葉として使われていたが、時代の経過に伴い敬意が薄れて現在に至っています。

ところが、丹波篠山のおいちゃん達は、初対面の人に対しても「おまえ」を連発します。

でも、そこに全く悪意はなく、古語で「御前」として使用されていた時のように“敬愛”や“親愛の情”を込めて使用しているのです。

結婚前に初めて妻の実家を訪ねたときに、「おまえ、遠いところから来たんけ」と義父に言われ、「この人、初対面の人間に失礼やな！」とカチンときたのを思い出します。

でも、今思うと、その「おまえ」には、親愛の情がこもっていたのでしょ。

= 作品・写真など募集しています =

P3、4の「真実」印のついている3つのコーナーは、読者参加型の企画です。ご自身の作品や、身の回り気になる情報がありましたら、ぜひとも公民館の職員にお知らせください。ご協力お願いします。《中央公民館：TEL594-1180 FAX594-1174》《城東公民館：TEL556-3171 FAX556-3914》《各支所もOK》